

令和2年度 県立水戸南高等学校（定時制・昼間制）自己評価表

目指す学校像		「生徒一人一人のニーズ・スタイルを尊重し、学校本来の大切さを日々感じる高校」 単位制で作る自分の時間割、生活スタイルで選べる3つの課程、たくさんの教員による手厚い指導体制を生かしたセルフビルドの学習を実現する。 JR水戸駅から徒歩圏内の利便性と、緑に囲まれた閑静な環境を生かして、持続可能な心静かな学びを実現する。		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 「わかる楽しさを実感できる授業」や生徒の実態を把握し、個別指導を充実させることで、学習意欲が増し、勤労観・職業観も育成されてきた。今後、社会生活に必要なスキルやコミュニケーション能力等の指導も一層充実させていく。 不登校経験者が6割を超す中、生徒に寄り添った指導を継続的に行うことやスクールカウンセラー等、外部人材との連携により、生徒が大きく変容することができた。今後も、個に応じたきめ細かい指導・支援を充実させる。 様々な支援事業等の活用や各種体験活動・生徒会活動により、人間力が成長している。学校行事をはじめとする学校生活への積極的参加を促し、より一層充実した高校生活を送らせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。 生徒の関心・意欲を引き出し、学ぶ喜びやわかる楽しさを実感できる授業を行う。 「主体的・対話的な深い学び」の表現に向けた授業改善に努める。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい勤労観・職業観の育成及び主体的な進路選択と進路実現 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア・カウンセリングの機会の確保に努め、キャリア教育を推進する。 日頃の教育活動全般をととしたキャリア教育に努め、様々な状況に応じて適切な進路指導を行う。 生徒の特性や進路希望に合った資格の積極的な取得を目指す。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導及び一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に寄り添った指導によって基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、自己肯定感・自己有用感を高める。 学校生活や様々な体験活動をととして、マナーやモラルの向上とさらなるコミュニケーション能力の育成を目指す。 道徳教育を含む教育活動全体をととして自他共に尊重できる姿勢を養い、いじめのない生活環境を整える。 スクールカウンセラーや教育相談員、キャンパスエイド等、外部人材との連携により、生徒一人一人に応じた支援を充実させる。また、学習や生活上の困難に対する個に応じた指導の充実とともに、特別な教育的支援を必要とする生徒の理解に努める。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 南祭（文化祭）や生徒会行事、クラスマッチ、生活体験発表等の学校行事をととして主体的に行動できる態度を養う。 部活動の活性化を図り、意欲的な取組と積極的な定通大会へ参加を目指す。 キャリア・パスポートを有効に活用し、主体的に学びに向かう力を育むとともに、自己実現につなげていく。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の資質向上 	<ul style="list-style-type: none"> 校内外の積極的な研修参加により、教職員としてのスキルアップに努める。特に、ICT活用能力を向上させることにより、授業力アップにつなげる。 在校時間を適切に把握し、一人一人の工夫とチームの協働体制を構築し、業務の効率化に努める。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信による学校への理解促進 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ等を通じ、学校行事等の様子を発信することで、学校への理解促進を図る。 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	基礎学力の確実な定着を図り、主体的な授業態度を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の充実を図るとともに、生徒が「わかる」楽しさを実感できる授業展開を目指す。 基本的な学習態度や個性を伸ばし、主体的に学ぶ姿勢を育成する。 生徒の学習意欲を引き出すために、教材・学習方法を工夫するなどして、積極的な授業への参加を促す。指導方法の改善を進め、授業規律の確立を目指す。 		
	基礎・基本の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習状況を把握し、必要があれば中学レベルに立ち返って学力を補う指導をする。 小テストを行い、定着度を確認するなど、小さな目標を設定しながら、自ら学ぶ姿勢を養う。 		
国語	生徒の能力・適性、興味・関心に応じた指導の工夫に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別にクラスを編成し、生徒の能力や適性に応じた指導を行う。 多様な生徒に対応できるように、学習形態を工夫する。 漢字検定を奨励し、漢字や国語に親しむ態度を育てる。昨年同様、検定合格者増を目指す。 		
	思考力の向上をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> 課外授業の充実を図り知識及び技能を習得させ、思考力を育む。 		

教 科	地 歴	地域の類似性・相違性を判断する力を培う。	・地理的事象を、国際社会の変化を踏まえて公正に思考・判断し表現する力を養う。		
			・地図や統計などの諸資料を活用し、追及した過程や結果を表現する力を育てる。		
		歴史上の時代や地域のつながりを見る力を養う。	・新聞、写真、統計などの資料を用いて、歴史的事実を思考する力を養う。		
			・副教材を資料として活用し、歴史的事象を公正に判断する力を身につける。		
		主体的・対話的な授業実践を意識し、生徒の自己有用感や自ら考え決定する力を涵養する。	・本校生徒の特質を考慮し、生徒が自己有用感や自己肯定感を持てるように、指導内容を精選するとともに、個別指導を取り入れるように務める。また、自己決定力や他者へ配慮する態度を育成するため、発問を工夫するとともに、他人の意見や考え方を尊重する態度を育てる。		
	公 民	政治や経済のしくみを理解させ判断力を育成する。	・視聴覚教材などを活用し、現実の問題を多角的な視点から考察する力を育てる。		
			・新聞記事や統計データを読み取り、分析解釈し判断する力を養う。		
		人間としての在り方・生き方を考える態度を育てる。	・先人達の人生における様々な課題を、机上での知識の習得に終わらせることのないよう自身の生き方に照らし合わせ、主体的・対話的に考察し深い学びになるようにする。		
		主体的・対話的な授業実践を意識し、生徒の自己有用感や自ら考え決定する力を涵養する。	・本校生徒の特質を考慮し、生徒が自己有用感や自己肯定感を持てるように、指導内容を精選するとともに、個別指導を取り入れるように務める。また、自己決定力や他者へ配慮する態度を育成するため、発問を工夫するとともに、他人の意見や考え方を尊重する態度を育てる。		
	数 学	基礎的、基本的な知識、技能の向上を図り、理解を深める。	・習熟度別にクラスを編成し、習熟の程度に応じた知識、技能を充実させる。		
			・生徒の現状理解のため小テストなどを実施し、基礎的な知識、技能の浸透に努める。		
			・基礎的な技能を習得させ、学ぶ楽しさを伝え、意欲の向上を図る。		
数学への興味・関心を高め、新しい知識と既存の知識との連携を図り、主体的な学びを促す。		・成績不振者の実態を把握し、必要に応じて個別指導を行う。定期テスト問題や評価を工夫する。			
		・数学を必要とする者、数学に興味関心のある者に対して積極的に個別指導を行う。			
		・課外授業の充実を図り、生徒の進路希望に沿うことができるよう努める。			
理 科	基礎学力の向上を図る。	・自然の現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるために指導内容を精選する。また、学力差を考慮し段階的に取り組める教材を取り入れる。			
		・ノート点検やプリント提出・小テスト等により問題解決の力を養う、理解度・定着度を把握する。			
	興味・関心を高める。	・成績不振生徒への特別指導を充実させる。			
		・視聴覚教材の活用により、理科に対する興味関心を喚起し、自然を愛する心情や主体的に問題を解決する態度を養う。			
保 健 体 育	基礎的な身体能力や知識の向上を図る。(体育)	・生徒の運動技能に留意しながら、自発的に活動できるよう指示を工夫する。			
		・それぞれの運動特性や興味に応じて、継続して運動する楽しさを実感させる。			
	協調性や協力性の育成を図る。(体育)	・ペア活動やグループ活動を通し、目標の解決を目指した運動を意識させる。			
	健康に対する興味・関心を高める。(保健)	・自己や他者の健康に興味・関心を持たせ、日常生活でも積極的に実践できるよう促していく。			

教 科	芸術	芸術の基礎・基本の獲得がもたらす概念領域の拡張とその先にある思考力の向上を目指す。	・レイコフ&ジョンソンが提唱した概念メタファーの考え方にに基づき、実習などの具体的な経験を通して認知技能を向上させ概念領域の拡張を図る。新たに獲得された概念領域を用いて他の概念領域の理解を促し、重層的な思考へ導く。		
		授業計画の適性化を図る。	・わかりやすい説明を心掛け課題内容に対する理解を深めさせる。効率的に制作や表現ができるようにタイミングを考えた指示を工夫する。		
		表現に対する意欲を引き出す。	・発達段階に応じた課題を設定し、獲得した技能が次の課題の必須技能となるような構造を有するカリキュラムを工夫する。		
		学習環境の充実に努める	・肯定的に評価することで自信をつけさせ、主体的に表現に取り組む意欲を引き出す。対話場面を設け他者の感じ方に対する気づきを促す。 ・施設、教材・教具の充実と開発、教室のレイアウトの最適化に努め、授業効率を高める。		
	英語	基礎学力の定着を図るとともに、4技能の使用を意識した指導を行う	・コミュニケーション英語Ⅰの授業において基礎基本の理解と定着を図り、学習意欲の喚起に努める。 ・個々の生徒の特性に留意しながら4技能を用いた言語活動の場を設けた授業づくりに努める。		
		英語に対する興味・関心を高める。	・ALTを活用して、英語を使う楽しさを実感させる。 ・英検受験やスピーチコンテストへの参加を勧める。		
	家庭	実験・実習を充実させ、生活的自立に向けて基礎学力の向上を図る。	・生徒の興味・関心を引き出すために教材を工夫し授業を改善することで主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ・実験、実習、演習を中心とした体験的・課題解決的な学習を充実させ、思考力・判断力・表現力を向上させ、人間性を育成する。 ・基礎的・基本的な知識・技術を理解させ、実践的な能力態度を身に付けさせる。製作実習では、完成までのプロセスを重視し、きめ細かな指導を行い達成感を持たせる。 ・専門教科における技術検定試験の指導を通して学びに向かう力を育成し合格率を引き上げる。		
		学習環境の整備と安全教育に努める。	・施設、設備の効果的な活用を図り、実験実習における安全、衛生事故防止等の徹底を図る。		
	商業	商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	・基礎的・基本的な知識・技術・判断力の確実な定着を図る。		
			・生徒の学習の理解度を把握し、必要に応じ個別にフォローする。		
			・グループ活動をとおり、時事問題など他の意見と比較しながら考察できるように工夫する。 ・職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。		
	情報	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	・基礎的・基本的な知識・技術・表現力の確実な定着を図る。		
・情報と情報技術活用して問題を発見・解決する方法を身につけさせる。 ・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察すること。					

教 務	行事運営の工夫に努める。	・各部との連絡調整のもと、行事・日程等の効率的運営を図る。			
	教育課程の工夫に努める。	・新教育課程に対応した教育課程の編成をしていく。 ・履修指導の充実と生徒にわかりやすく活用しやすいシラバスの工夫改善を図る。 ・学校外の学修による単位認定等、単位制高校の特色を生かした教育活動の工夫改善を進める。			
	教育活動の円滑な推進を図る。	・校内諸規定を整備する。 ・奨学金制度の周知に努める。 ・支援システムを活用して成績処理を円滑に行う。			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立に努める。	・定期的な登校指導を通して、挨拶の励行、遅刻防止を呼びかける。 LHRや学年集会等を利用して、授業態度、言葉づかい、礼儀作法等を指導する。			
	教員間の連携を強化し、チーム学校として、規律ある、安全安心な学校生活の推進に努める。	・全職員輪番で校舎内外を巡回し、日々の声かけにより、生徒の状況を把握する。 ・集会や講演会等を利用して、交通安全、薬物乱用防止、情報機器の安全な利用やマナーの向上について指導する。 ・各学年主任、生徒指導相談員、生徒指導主事による情報交換会を月1回開催する。 ・教育相談係との情報交換を密にし、個人に対してきめ細かな指導をする。			
	本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を適切に行う。	・生徒の自己有用感等を高め、生徒が相談しやすい関係を構築し未然防止に努める。 ・保護者から相談されやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。 ・いじめ発生の際には、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い早期解消に努める。 ・保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。 ・情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適切に行う。			
進路指導	望ましい勤労観・職業観の育成と進路意識の高揚に努める。	・進路ガイダンスを実施し、生徒各自の進路に対する意識の高揚を図る。 ・面談・履修指導・適性検査等を通して生徒のキャリアデザインを援助する。 ・進路指導室の充実に努め、生徒の進路研究および教師の進路指導に役立てる。			
	進学指導の充実を図る。	・専門学校、大学の進学希望者に対し、進学先に応じたきめ細かな指導を行う。			
	就職指導の充実を図る。	・就職希望者に対しては、ネットを利用した求人票を紹介し個別指導の徹底を図る。			
学習指導	学習意欲の向上と確かな学力の定着。	・生徒の興味関心を高めるよう、授業方法や教材を工夫し、基礎学力の定着を図る。 生徒の進路希望に応じた課外を継続的に実施し、個々に応じた学習指導をする。			
	視聴覚教育の充実。	・視聴覚室及び視聴覚教材の整備と機器の更新を進める。 視聴覚室と放送機器の使用方法的周知を図り、その活用を促す。			
	図書館の充実と利用の促進	・「読書センター」及び「学習・情報センター」としての機能を果たすよう図書館内の環境整備、利用方法的工夫に努める。			
	教科書関係事務の円滑かつ正確な遂行	・対象者へのわかりやすい提示の工夫をする。確認を徹底し書類不備の減少を目指す。			

特別活動	生徒会活動の一層の活性化を図る。	・本部役員立案により、魅力ある学校行事を実施する。また、ホームページ等を活用し外部への情報発信をする。		
	生徒の自主性を育む行事の運営に努める。	・本部役員が主体となり、一般生徒の積極的な活動を支援し、自発的な活動を高める。		
	キャリア・パスポートの活用について周知する。	・教員が対話的に関わり、自己のキャリア形成や主体的に学びに向かう力を育む。		
	部活動の活性化を図る。	・部活動の充実に加え、生徒が活躍できる機会を持たせる工夫をする。		
保 健	生徒の心身の健康増進を図る。	・健康診断の受診率向上を目指す。また、健診を通して自主的な健康の保持増進を図る。 ・常に生徒の心身の健康状態の把握に努め、早期に問題の解決に当たる。		
	生徒の健康・安全に対する知識の獲得や技能の向上を図る。	・避難訓練や心肺蘇生法講習を実施し、安全に対する知識と技能の向上に努める。 ・性教育講話やがん教育講話を実施し、自他の生命尊重と望ましい人間関係の構築を図る。		
	環境の美化を推進するとともに環境問題に対する意識向上を促す。	・清掃作業や整備委員会の活動を通して校内の美化に努める。 ・資源ゴミの分別がしやすい方法を工夫し、分別を通して環境問題への意識向上を促す。		
	各種行事への会員の関心と参加率を高め、家庭との連携を密にする。	・会員が参加したくなる学校行事を外部連携などを積極的に言いながら企画する。 ・役員・委員の要望を事業により反映させることによって自主性を引き出し、各会の主体的な運営を促す。 ・渉外部員間での情報共有を意識的に行う。 ・広報紙やインターネットを利用して効率的に情報発信し、会員相互の理解と問題の共有を図る。		
教育相談	適応支援室の充実に努める。	・適応支援室を通して、学校が、心の休まる場所となることを目指す。 また、支援室スタッフとの連絡を密にし、教職員と連携を深めて指導の充実に努める。		
	スクールカウンセラーとの連携に努める。	・スクールカウンセラーを交えての事例検討を行う。スクールカウンセラーと担任及び関係職員との連携を深める。 ・生徒対象のアセスメント活用法を模索する。		
	特別支援教育の理解と充実に努める。	・校内研修、教育研修センターでの研修を通じて、特別支援教育の視点に立った教育活動への理解を深め、実践につなげる。 ・特別支援教育校内委員会の活動を通じて、合理的配慮に対する理解を共有し、充実に努める。 ・通級指導実施までの流れを整備し、効果的な実働に結びつける。		
	第1年次	高校生としての基本的生活習慣の確立を目指す。	・オリエンテーションを実施し、学校の仕組みを理解させ学校生活を支援する。 ・生徒個別面談を適時実施し、生徒の状況把握に努める。 ・機会あるごとに生徒に声をかけ、実態を理解し、生徒に寄り添った指導を行う。	
	多様な問題を抱えた生徒に適切に対応する。	・養護教諭、教育相談係、スクールカウンセラー等と協力し、情報の共有を図る。 ・家庭との連絡を密にし、学校生活の様子などを知らせ、相互理解に努める。		
	基礎学力の向上に努める。	・夏休み前のTTを通して、授業にきちんと取り組むことができるよう指導する。 ・課外授業やSHRでの小テストを通じて、生徒に実力をつけさせる。		

第2年次	基本的な学校生活習慣の確立に努める。	・欠時数や修得単位数の情報を伝え、自己の現状を正しく理解させることで、一層の自己管理を促す。			
		・機会あるごとの声かけや必要に応じての面談を行うことで生徒状況を把握し、昨年に引き続き、 ・家庭との連絡を密にすることで、家庭との協力体制を作る。			
	基礎学力の向上に努める。	・HR・授業など、あらゆる機会を通して授業にきちんと取り組むよう促す。			
		・進学課外の受講や、模擬試験の受験を勧める。また一般常識テストを継続的に実施する。			
	進路意識の向上を図る。	・進路ガイダンス、進路適性検査やホームルーム活動を通して、正しい職業観や勤労観を養う。			
		・個別面談を早期に実施し、進路に向けての生徒個々の課題を明確にする。			
第3年次	卒業を見据えた単位の修得を指導する。	・生徒・保護者との連絡を密にし、卒業を展望した単位修得を促す。			
	進路希望の実現を図る。	・必要に応じて個別面談をとおして、生徒・保護者へ情報発信をおこなう。			
		・進路ガイダンスやオープンキャンパス等への積極的参加を促す。			
		・進路希望に応じて、適切な個の指導を組織的におこなう。			
	自律的な生活態度の確立に努める。	・卒業後を見据え、あらゆる機会を利用して常識ある態度の育成に努める。			
協調性の育成に努める。	・学校行事への積極的な参加を促し、コミュニケーション能力および協調性の育成に努める。				

※ 評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない